

育兒の經驗

某 夫 人

夏期を利用して小供の健康を圖る事

誰も申します通り、親の身にとつて小供の弱い程心を痛める事はありません。やれ發熱したとて醫者を迎へ氷で冷し咽喉を痛めたとて濕布をし、吸入をして、勞力と金とを心配の中に費すことの多き事は、病氣にこした事はありますまい、どうぞして此の心配を少くし小供の發育を充分ならしめんと願ふは世間一般親としての心に變りはなからふと思ふ。しかも病魔に犯さるゝ兒の多く、悲痛にくれ居る親の多きは何故かと申しますれば、色々原因もありませうが私は親が小供に對しての衛生思想の缺乏に由る事が多いと思ふのであります。すべて天稟弱い子供でも、親の注意が行き届きさへすれば、餘程健全になるものであると信じます。それを親の注意が行届かず、衛生思想がなければ、天性健康な小供でも、遂に天折の災に陥る事が多いのであります。天折せずとも薄弱な不

幸の兒となる事が多いのであります。我が兒壯健なれとはすべての親心でありながら、しかも實際小供の健康に注意を拂ふ事の吝なるは、嘆かばしい次第であります。ことに其の任に當るは外で働く丈夫の事にあらずして、家をあづかる母親の手にある事が多くありますから、世の母親たるものは、今迄修得せし理科の應用をするは實に此の時ぞと、深く反省して、我が兒をして適當に其健全を増進せしめんと圖る心掛を持たねばなりません。

一年三百六十五日の間一日たりとも一時たりとも一分たりとも苟も我が兒を持たば其の發達に心を用ひねばなりません。ことに此の夏期は小供にとりて最も其の健全を圖る好時期と思ふのであります。世の人は色々で、夏期殊に酷暑の際などは、最も恐ろしいもの、様に考へて、只く無事にさへ過せば其れで結構だと、只事なれば事なかと願ふ人もありませうが、私はこの酷暑が一等小供の身心を鍛練するに好期であると信じて、成る丈け涼しい事はばかりさせないで、次のよーにし

て見ました。

冷水摩擦もよし温水もよし日光浴もよし蟬取もよしトンボトリもよし濱邊に涼しき袂をひるがへすもよし。静かな山に温浴を試むるもよし種々小供のなすべき事はありませうが、私共の様な食しいものはさう四人も五人もある子をつれて涼しき場所には水浴させる事も出来兼ねますから宅に於て日中風呂を沸かして一日の中一等級い一時半頃から三時頃まで、殆んど二時間程、子供を皆はだかにして、決して家の中とか木の影とか涼しき場所におかず、日光のあたる庭に出して、洗足にし、先づ一回温浴せしめて、よく水氣を拭き取り、庭の中にて鬼ゴッコやら、水遊びやら土はじりやら、色々な事して、日光浴をさせます。其の時小供の嬉しさうな笑語は大變でビン／＼はね廻る様子のいかにもたのしそくに壯快を感じます。其も其筈で成程今迄暑いく／＼と云ひながら汗たらたらになりて着衣せしものが其の邪魔になる衣服をぬぎすて、まづはだかになつて身體が軽くなつたのだから、活氣に充てる子供の、ジツトしては居られる

筈はありますまい。大聲あげてかけ廻り、土をなげ水をまき、花をむしり、女の子は六歳になりませんが、汗タラ／＼となりて、朝顔やらホーセンカの花をむしりて、花ヤ／＼とかつぎ廻りて私の處に賣りに來ます。幾らですかと押問答する中に數の觀念を興へ、言語の使用法を悟らしめ、三歳になる妹に對して、好む花を興へて友愛の情を養成せしめ、男の八歳になる子は四歳になる弟をつれて、トンボや蟬をとりにて、コノトンボは何と言ひますか、蝶々は何と言ひますか、何でこんなに鳴きますか、冬はなぜ出ないですか、このトンボとわのトンボはなぜ違いますか、ど／＼して大きくなりますか、何を食べますかと際限もなく有益なる質問をビヨンビヨン矢の如く放ちます。又お湯に入れて洗つてやる中にはなで垢が出ますか、なで洗へばよいのですか、なでシャボンぬるのですかと衛生的の質問も出る。ア、其れは皮膚にぬ敷へきれぬ程小さな穴があつて身體の中に出るきたない物や汗やなどは皆この穴から出る。其れを湯に入つて洗はないと其の垢が出る事が出来な

いから、身體の中にあつて身體の災をする。それが病氣の原因になる事もあつたのだから、よくお前達の身體はコスリて汗やきたない物を出さなければならぬと、子供の身體を洗ひながら委しく平易に話してきかせますと、子供は實によく了解する。これをくり返しくり返し、お湯に入れたる度に、種々の方面から話しながら洗ひますと、子供は只で聞きては居ませぬ、黒い眼を輝かし、口を尖らして、母さんそんなら若し洗はなければ病氣になる。病氣になれば死ぬかなど、實に子供心に起る質問をツンツン出す。これを黙過せず必ず之を捕へて、一つの系統を立て、平易に話しかせると、子供を奇麗にする上に將來學校で理科教授を受くる時の準備は立派に成立つ。否理科教授を受くる準備ではなく、子供の時から衛生思想を興へて、身體の大切な事健康の貴重なる事などは皆立派に悟らさせる事が出来る。ソコで子供が胃腸にわるい食物をねだる時や、或は厚衣薄衣をしたがる場合には、「お前は身體をわるくしても可いか」と申しますといやだと言ふに違ひありません。

それでは間食はかよしと、かいふ風にして行きませすと子供は只壓制的にしたい間食を止らるゝといふ不満の念は更になく母の命令に服従します。話がつい／＼餘計な方にはしりかけましたか母が子供を育てる時は實に一分の隙もありません。今申す通りお湯の中でも種々の教授が出来ます。或は水につき火につき、或は胃につき、腸につき、毛髪につき、眼の事につき、肺の事につき、足につき、歯につき、爪の衛生につき、口内の衛生につき、齒につき、すべて見るもの皆子供に立派な學問をさせる材料でないものはありません。稍大きな六つと八つの子供には種々右申しました様な觀念を授くる中に、温浴と日光浴とは充分にやらせませぬ。かゝる質問を持たぬ四三二歳三兒には、いろんなそこらのおもちゃ等をととり興へて遊ばせませぬ。そして或は熱さのひどくなるときは冷浴もさせませぬ。かくして二時間計の時間を活動させてしかも一日の中一等凌ぎにくい時を大變愉快に過させませぬ。少し暑さの度の減じました時、温浴をさせて、シャボンで奇麗に洗ひ、乾いた手拭で

よく／＼水氣を去り、皮膚の赤くなつまでこすりて衣服を着せ、平常の装にいたします。晚餐の時は食事がすゝみ夜は全く白河夜船で平素ね小便して居たりも其の時は無事にねてね小便をいたしません。實に此の夏期ほど子供に楽しみな事はありません。實に此の夏期ほど子供に楽しみな事はありません。

酷暑の一ヶ月を右の如くいたしますと身體の健康を増すように思はれますが、女の子は容貌殊に皮膚は少し日にやけて、色が黒くなりますが、湯から上げる時、よくシャボンで洗つてやれば、美を損ふ程ではありません。

學校に居りまして、勉強する最中は、只試験がうまく出来さへすればなど、すい分淺慕な考を以て居る方もあるとしますが、決して女子の學問するのには、虚榮の爲めでも試験の爲めでもなく將來妻となり母となりて、家政を掌り育兒の大任を引うける爲であります。もし子供等の自然に起す質義に對して、明瞭な觀念を系統的に與へる所ではなく、答さへ出来ず、その有益な質問を無殘くふみにじりて行くやうであれば、實に親たり母

三十二

たるの責は少しも盡されぬ事になるだろうと思はれます。どうか世の母たり妻たる人は、平素自己の修得したる智識をこゝに活用させ得らるやう、かみこなした上に、或は暇を見ては新紙雜誌に目をさらして、時勢に遅れないやう氣をつけて貰ひたいと思ふのであります。

(完)

世界の人類

最近の調査に據れば地球上に棲息する人類の總數は凡十四億五千万人にして此内亞細亞に住する者は一億人平均一哩平方百二十人の割合にして世界人口中最も稠密なり歐羅巴は三億二千万人平均一哩平方に百人を有す阿非利加は凡そ二億一千万人南北及び中央阿米利加は凡そ一億一千万人外に大小の島嶼に住する者凡そ一千万人にして其内黒人と白人とは五に對する三の割合なり又總ての人類中完全に衣服を着する者は凡そ五億人全く裸体にて生活する者二億五千万人半ば体を被ふ者七億人家屋に住する者五億人小舎又は穴に住する者七億人殘りの二億五千万人は全く何等り住居を有せず